

もうすぐ天神祭りです

7月24日・25日

松本に夏の到来を告げる

深志神社の例大祭である天神祭りが近づいてきました

【ご祭神】 当社のご本殿が二殿あるのはご存知ですか。向って右が宮村宮で諏訪明神（建御名方命）を、そして左が天満宮で天神さま（菅原道真公）をお祀りしています。もこの地には南北朝時代のはじめ、諏訪明神が信濃守護小笠原氏により祀り始められ、のち深志（松本）城の鎮護の神とされました。

一方、天満宮は江戸時代はじめ一六四四年に、城主菅原季政公が、鎌田に祀られていた天満宮（北野天満宮から勧請）を宮村宮の北側に遷しました。

【お祭り日】 毎年、もっとも大切なお祭りである例祭が行われる月日は、はじめは諏訪明神の祭日である9月9日でした。江戸時代になり、一六三四年より天満宮が遷座され

た6月25日（天神さまの御誕生日）にあたりました。明治以降は、新暦により7月25日となり、今日に及んでいます。

【天神祭りー舞台・神輿】 城下町の町人としての心意気と誇りをしめす氏子町内の舞台の由来は、城主小笠原忠真公が一六一五年、大坂夏の陣への出陣にあたり当社へ武運を祈願し、戦勝の御礼として神宝・社領などを寄進され、さらには南深志13ヶ町に舞台を作らせられたことに始まると伝えられています。



のちに3ヶ町が加わり、現在は16町・16台となっています（市重要有形民俗文化財）。これらの舞台が神社に曳きこまれる24日の宵祭り

八坂祭のご案内

7月14日・15日

当社におまつりする八坂さまは、病氣除け・虫封しなどおもに子どもたちの健やかな成長を祈る守り神として慕われています。7月14日の宵祭には、願いをこめて浄書した五色の幟（のぼり）を奉納する多くの子どもたちのお参りで境内はにぎわっています。

八坂神社は拝殿奥、天満宮のお社の北脇にお祀りされています。御祭神は「須佐之男命」です。この神さまは神話の中では猛々しい乱暴者の神様として登場しますが、高天の原を去って地上に降りてからはヤマノオロチを退治し、平安な国を築く神さまとなります。このためオロチに象徴される悪や災い、疫病などを討ち平らげる力強い守護神として信仰を集めるようになりました。

須佐之男命は祇園祭で名高い京都の八坂神社をはじめ、愛知県津島市の津島神社など全国に数多く

そして、氏子町内の全域には注連（しづめ）がめぐらされて、こそって祭りをむかえ、大人にも子供にも楽しみに待ちのぞまれています。天神祭りは、この松本城下町の歴史・信仰・伝統と町人文化を今に伝えて生きています。

お祀りされています。今からおよそ三百年前、元禄13年（一七〇〇）松本地方に大きな疫病が流行しました。そこで疫病除けの神として信仰を集めていた津島神社から御分霊をいただいて祀られたのが当神社の八坂さま、八坂祭の始まりです。

この祭りには、子供だけでなく、夏を迎えるにあたり、家族の無病息災の祈りもこめられています。なお、五色の幟紙や殿は市内のスーパ―、八百屋・魚屋さんなどでとり扱われています。



納奉 八坂大（明）神

（浄書例）
○（主男）年生 ○武（女）男（氏名）

節分祭の奇行

2月3日午後2時に拝殿前で豆炒り式。午後5時より節分祭を斎行し、立春にあたり諸々の邪気を祓い、また氏子・崇敬者の無病息災・家内安全、氏子繁栄・五穀豊饒、四海平安・国運隆昌、天下泰平・皇祚無窮が祈願されました。

幸多き「福」を授かろうと大勢の人が参られ、拝殿前特設舞台から年男・奉賛者・来賓の方々により盛大に豆撒きが行われました。

今年も氏子町内外の崇敬者より九百余件もの多数の奉賛をいただき、福投げの景品も液晶テレビ・DVDプレイヤー・石油ファンヒーターなど数多く用意し、賑々しく斎行できました。これも募金に尽力頂いた氏子総代会年番ならびに氏子町内、崇敬者の皆様のご奉賛のおかげと厚くお礼申し上げます。

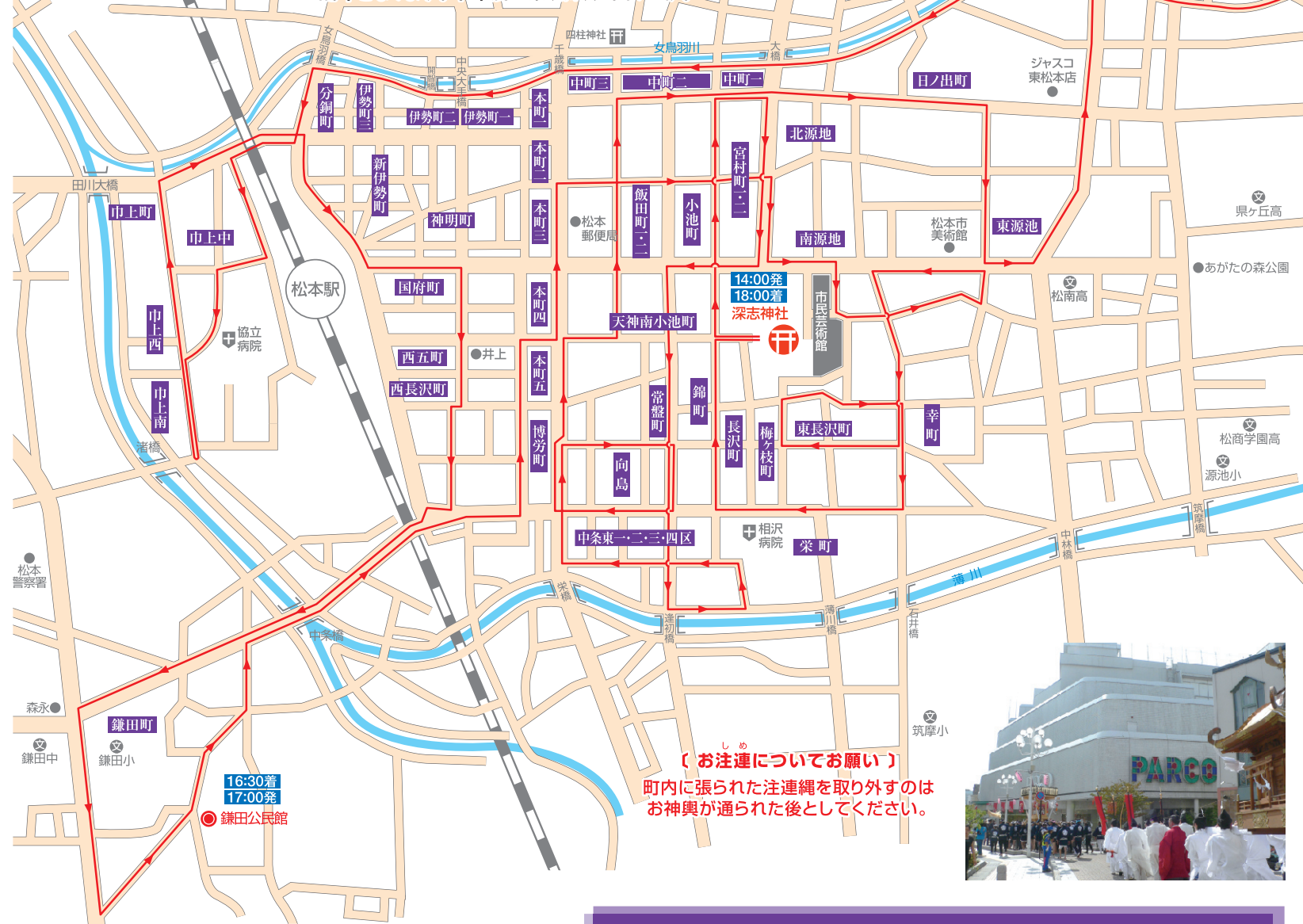


また、子供たちが安全に拾うことができると新設した子供コーナーも充実しています。

深志神社の神さまが、年に一度、町内を巡られます。どうぞお迎えください。

平成18年度 深志神社例大祭（天神祭り） 御神幸式 神輿渡御巡路 A（車載）宮村宮 7月25日（火）午後2時～6時

自動車による神輿渡御巡路は本年度より西（鎌田）先回りと東（清水）先回りとの隔年となります。本年度は東（清水）先回りです。



（お注連についてお願い）
町内に張られた注連縄を取り外すのはお神輿が通られた後とさせていただきます。



天神祭り 白丁奉仕者を募集します！



深志神社例大祭で、御神輿・威儀物（神様を御守りする盾、鉾など）のご奉仕できる方を募集しています。伝統ある祭儀に直接体験できる、またとない機会です。

ご奉仕の際は神社より白丁装束を貸与します。ご希望の方は社務所（林）までお問い合わせください。

幸町

◆昭和初年の旧町名
旧源池小学校から中林橋までの南北に長い町で、大正十一年長沢町から分離して新しくできた町である町名は、この地の開発に貢献した石井祐助氏が父親幸正氏に因んでその一字をとった。また地域の人々の末長い「あわせ」を願う意味も込めて幸町と名付けられた。

幸町

（平成八年 石井味噌店角）

錦町

◆昭和初年の旧町名
松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町と呼ばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その一つが錦町である。この町名には町の発展を願う町民の思いが込められている。



（平成九年 中沢ビル角）

遠藤久芳宮司 宮司就任、身分昇進祝賀会



「遠藤久芳宮司 深志神社宮司就任並に神職身分昇進祝賀会」が5月29日、当社梅風閣において二百人を超える多数の方々の臨席を得て開催されました。

遠藤宮司は昭和46年以降三十数年の長きにわたり当社に奉職され、林克三前宮司の逝去のあとを継ぎ、一昨年4月より宮司代務者として奉仕していました。本年3月1日付けをもって神社本庁より深志神社宮司の辞令を受け、就任しました。また、多年にわたる神社界での功績により神社本庁表彰を受け、3月10日には神職身分二級上に昇進されました。

発起人として長野県神社庁長・長野県護国神社宮司齋藤吉仁氏、同副庁長・穂高神社宮司小平弘起氏、同副庁長・諏訪大宮司平林成元氏、深志神社氏子総代会長金井利曉氏、同副会長水野秀一・中村欽哉両氏、前松本市長有賀正氏、長野県神社庁松塩支部長宇治橋淳氏八名の皆様による祝賀会（事務局深志神社社務所）の主催によるものです。当日は神社界のみならず多方面の関係



宮司・夫妻と発起人の方々

松本深志舞台保存会だより《2》

小池町舞台修復竣工
施されました。
この舞台のほとんどは、町内の職人の手で造られ、今回の修復作業も松本と木曽の木工・鍛冶屋漆職人など多くの職人による修復を終えて美しい姿で復元され、4月24日、竣工報告、魂入れ神事が執り行われました。明治27年に造られて以来、百十一年ぶりの大改修です。これは松本深志舞台保存会の事業の一環として実方も多いでしょう。正式



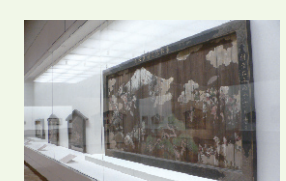
文化財シリーズ《1》

「菅仲像」等の出展

新春絵馬展への出品

平成17年9月松本市松本市教育委員会・国宝松本城解体五十周年記念事業実行委員会主催「未来に伝える私たちの松本城展」（於松本市立博物館）に、当社の菅仲像（菅原忠真公像）、厨子宮形と小笠原氏三階菱紋付鎧が出展されました。

ともに慶長20年（一六四五）頃松本城主小笠原忠真公の奉納と伝えられています。小笠原氏の天神信仰と、当社の崇敬の歴史と深く関わり、加えて宮形に施された桃山調と推される絵柄等の工芸美術的観点から文化財としても貴重な価値を有しています。



当社は約80枚の絵馬が奉納保管されており、この地方では随となります。なお、普段は境内の絵馬殿に掲げられています。